



西新潟中央病院

NST NEWS 第9号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2014年6月3日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線 1303

NSTミニレクチャー 第7回 ～摂食・嚥下障害の基本のお話～

月に1度の栄養の勉強、NSTミニレクチャーのコーナーです。
第7回は摂食・嚥下障害の基本のお話です。



Q. 摂食・嚥下障害は治りますか？

A. 摂食・嚥下障害の予後については諸説あります。

例えば、障害がある場合でも適切な治療により症状がゆっくりと改善する場合がありますし、残念ながら改善が難しい場合もあります。もともとの病気が進行する病気の場合、口から食べる機能も低下していくことが多いと言えます。その場合には、食べ方や姿勢、食事形態を調整して、口から上手に食べる方法を模索、実践、継続していく事が重要です。

Q. ご飯を食べていない人でも口腔ケアは必要？

A. 口の中の汚れを減らすために必要です。

口腔内は食事をしなくても歯や舌の表面に汚れがたまっていきます。また、口をあまり動かさなくなると、唾液による自浄作用が低下し、より汚くなるとも考えられます。汚れが唾液と共に誤嚥されると肺炎のリスクも非常に高まります。

Q. 水分や料理にトロミが必要なことが多いのはなぜですか？

A. 水のように粘度の低い液体は、動きが速く、誤って気管に入りやすいからです。

トロミをつけることで、動きのスピードを遅らせ、更にまとまりやすくなるため、スムーズに飲み込むことができます。水分の物性の違いによるものであり、水分の種類による違いはありません。

Q. ご飯を食べる姿勢が重要と聞いたことがありますが、なぜですか？

A. 食事の際に、正しい姿勢が重要となるためです。

食べる機能のリハビリを行っている場合、安全面からリクライニングを行うことがあります。これは喉の構造と重力などの外的作用が関わっています。他にも、左右どちらかの食道入口部に開大不全がある場合などには、体位を側臥位とし咽頭の後壁に食物を流すのではなく、側壁を利用する場合等もあります。体の角度だけではなく首の角度も重要です。人によって安全な角度や姿勢は異なりますので、その人に合った角度の検討が必要です。

(文責：リハビリテーション科 伊藤恵太)

栄養管理室からのお知らせ ～訪問栄養食事指導について～

栄養管理室では今年度より在宅への訪問栄養食事指導を開始しました。患者さんの家に訪問し、実際の調理を交えながら栄養指導を行います。ミキサー食やキザミ食を在宅で継続する必要がある方など、退院後の食事に不安のある方については、栄養管理室に是非御相談ください。

